


# 健全な男女共同参画社会をめざす会

正しい男女平等とは

[トップ](#) [入会のご案内](#) [会報](#) [活動内容](#) [リンク集](#) [お問い合わせ](#)

[会報一覧に戻る](#)

## なでしこ通信 6号

<p><b>なでしこ通信</b></p> <p><b>第6号</b></p> 	<p>目次</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○「らしさ」の崩壊がまねくもの 東温市立重信中学校教諭 大津寄章三</li><li>○愛媛大学生の感想 「山谷えりこさんのお話を聞いて」</li><li>○特別寄稿 「山谷講演を聴きながら」 安江薫</li></ul>
---	---

健全な男女共同参画社会をめざす会  
**なでしこ通信** No.6

※ ※ ※ 「らしさ」の崩壊がまねくもの ※ ※ ※

## 東温市立重信中学校教諭 大津寄章三

「男らしさ」「女らしさ」は差別につながる、と叫ぶ人が居る。

そういうものより「人間らしくありたい」のだそうである。

倒錯した論理というほかない。人間が禽獣と異なるのは文化を築く能力を持っているか否かであり、それこそが人間らしさの象徴とさえ言ってよい。どのような社会も長い時間をかけ、その価値観に見合った「立場や役割に応じた人間の理想像」をかけがえのない文化としてかたちづくっていた。

したがって「らしさ」とは、その社会における多くの徳目を内包しており、うかつにそれを否定することが文化自体の崩壊につながりかねない。

われわれから後天的にまとわれた道徳や規範、美意識、歴史感覚といった文化を一枚ずつはがしていけば、そこには一個の「生物たる人間」の基層が露出するであろう。自己の維持・保身と際限のない欲望が見え隠れする「生物としての人間」への回帰とは「人間の動物化」「わがままのすすめ」の別名に他ならない。

愛を語り合う恋人が暴漢に襲われたとき、彼女と置き去りにして逃亡する男を私たちは

「人間らしい」と思うだろうか。凶悪犯に囲まれた市民を見捨ててわが身の安全を図る警察官に人間としての理解を示せるだろうか。だれしも命を落とすかもしれない危難に立ち向かうことは御免こうむりたいに決まっている。しかしもし考えてみれば私たちの社会は

「生物としての人間」という重力に逆らいつつ、肉親や恋人、時には全く見ず知らずの他人を守るため職務が立場に殉じた多くの崇高な魂によって守られてきたのではなかったのか。

土壌をはぎ取られ岩石がむき出しになった山肌には樹木が育たないように、「らしさ」と

いう禽獣と異なる文化的な行動原理なくして、人は「ひと」にならないのではないか。

「男である前に人間でありたい」という思考は女性へのDVを日常化させていった（かつてのわが国には女子供に手を上げるやつは男の風上にも置けない、という文化があった）。

「母である前に女でありたい」という論理は幼児虐待の激増につながり、「夫や妻であるより男（女）でありたい」という選択は容易に子にんの破綻を招き寄せてしまった。政界をはじめ産業界やマスコミに相次ぐ不祥事・スキャンダルにしても、煎じ詰めてみれば「その道のプロであるよりも一人の人間でありたい」という安きに流れるアマチュアリズムの発現に他ならない。

「らしさ」の崩壊は先人たちが工夫・苦勞して踏み固めてきた「道」を破壊し、個人の欲望とコントロールする誇りや矜持を急速に喪失させてしまった。道しるべを見失った現代人にとって、もはやその行動を律するものは「個」の生理的欲求と利害損得というきわめて動物めいた原理のみとなってしまった。その逆風をさらにあおっているのが「ジェンダーフリー」という魔語で語られる思想なのである。男女共同参画のキーワードとなるこの言葉のもつあやうさは、近年やっと心ある人びとに認識されるようになり、来年度より使用される教科書から一斉に削除されることとなった。しかしまだまだ油断はできそうにない。

★★★「愛媛大学生の感想」

山谷えり子さんのお話を聞いて★★★

■ 私は、今年4・5月ぐらいに放送された「報道2001」という番組で性教育と取り上げていた時に、山谷えり子さんが議論に参加されていたのを見ました。そのときに初めて、今の日本の性教育の実態を知って驚いた記憶があります。今日のお話の中でも、吹田市の副読本た実技教材人形を例に出して、過激な性教育が行われていることが出てきましたが、番組でもそれらが紹介されていて、私も山谷さんと同じように、これは行き過ぎた性教育だと感じていました。なぜ過激な性教育になったのかというと、それは男女共同参画の中の「性教育の充実」という記述がきっかけとなっていたことを知り、さらになぜ性教育の充実を図らなければならないのかと疑問がわいてきました。

それは今の、特に若者の性に対するモラルの低下により、性病や中絶が増えている現状を改善するためなのかと思いました。確かにある程度の性教育は必要だと思います。しかし今、その教える程度・基準が問題となっていて、行き過ぎた性教育により、子どもの権利侵害だという訴えもあるとのことでした。

性教育に限らず教育というものは、子どもの発達段階に応じて、子どもの心を配慮しながら行うべきだと思います。話題となっている歴史教科書だけでなく、保健・家庭科など生活に根づいた教科書でも問題点があって衝撃的でした。私はそのような教科書ではなかったのですが、もしそれらを使って教育されていたら、性についてや家族観が今と多少なりとも違っていたかもしれません。

教育・教科書問題に共通して言えることは、事実をバランスよく教えることが大切だということです。この事実のバランスがうまくとれずに、また組織ごとにバランスのとり方が違うために生じている問題だと思いました。

そして、ジェンダーのお話では、大学の3割が必須科目にしていることを聴き、愛大もそうなのだろうかと少し疑問に思いました。ジェンダーをテーマにした授業があるのは知っ

ていますが、私は受けたことがないのでわかりません。でもお話を聴いていて、どんな授業なのか受けてみたいとも思いました。

山谷さんは自ら徹底した調査・研究を行っているように思いました。なぜなら、山谷さんの様々な体験と事実の発見過程をお話されていて、とても説得力があったからです。見えているようで見えない教育現場を徹底し見直すことが必要だと思いました。おそらく、大学もこの中に入るように思います。

調和と温かさを持った家庭・教育・国なおしを今、進めていく必要があると思います。今日は貴重な講演を聴くことができよかったです。

■ すごく良かったです。興味深い話で、考え方がかわりました。私は今までの学校教育でジェンダーフリー的な考え「らしさはなくすべき！」と教えられてきたし、その思想は日本をより良くするのだと信じきっていました。だけど講演を聴いてジェンダーフリー思想には危うい所があることを知り、じぶの考えが広がりました。

■ 最近ではジェンダー学というものが盛んに叫ばれているようです。男女が仲良く暮らせる社会を作ろうという目的のようですが、これもまた男女差別に過剰反応して、行き過ぎた結果になっています。結婚＝女にとってデメリット、という教育が平然となされていることに、山谷さんと同様、私も驚愕しました。

■ 私は山谷えり子氏を全く知らず、国会での討論が話題になったことも無知でした。行って良かったです。知らないままです。

過剰な性教育については明らかに問題だと思いました。相応の年代になれば知識は自ずと入ってくるものだし、別に学校で教育する必要は全くない気がします。家族や地域社会、友人などのローカルなネットワークを通じて得られるはずの知識を、学校に頼りすぎているのではないのでしょうか。

文部大臣が教師を従わせる権限を持たないというのも驚きました。普通の会社だったら即刻クビにできるような（卒業式で君が代を歌わないとか）自己中心的な人間がはびこるわけです。

■ 以前何かのテレビ番組で中絶の映像を見たことがあるのですが、メスのような器具で胎児を引き裂くというやり方で、ショックを受けたことを覚えています。日本は宗教的な抑止力がない分、自分達でしっかりとした倫理観を構成していくことが必要だと感じました。

■ 色々な可能性を認めるということと、色々な可能性を広げる、ということはまったく別のものです。

シングルマザーは差別されてはいけません。

けれどシングルマザーになることを推奨してどうする。

これは前から思っていたことなのですが、「ジェンダーフリー」は女性の解放という面で語られることが多いですね。女性を社会に進出（この言い方も何かおかしいですが）させる努力はしていますが、男性を家庭に入れる努力はほとんど行っていない（共稼ぎ家庭の援助を主眼においている）。家庭崩壊して当然です。

■ 家庭崩壊の原因も、ただ人間同士のコミュニケーション不足、我慢が足りないだけのよ  
うな気がします。

現代は子どもの権利よりも親の権利の方が優先されている状態です。私の親は何より私達  
を優先してくれましたので、身勝手な親が大い状況に違和感を感じます。またこれは一方  
に偏っている、というのが問題だと思います。私達の（判断を左右する）情報源の多くは  
マスコミに占められているんだなあ、と感じました。それに、マスコミからの情報を信じ  
るあまり、そこで思考停止してしまっています。これから育っていく子どもたちのため  
に、無関心でいたくはないです。

■ この講演会で私は、学校教師の頭の悪さ、国の教育管理体制に根付くムラ意識を知っ  
た。ジェンダー教育については、ジェンダーフリーという言葉を方面的にしか捉えず、男  
女混合に行動させる学校が多々ある事を知った。

その一例として、山谷さんは「小学校における男子及び女子の騎馬戦」を挙げられてい  
た。これは間違ったジェンダーフリーの考え方である。

なぜなら、女子の身体の構造は騎馬戦に向いていないからである。これは教師の考える  
ジェンダーフリー教育が「性差にこだわることなく、平等に男女を行動させる事」である  
という間違った意識を持っているからである。

そうではなくて、ジェンダーフリー教育とは「男女は性的に異なる人種であり、それを区  
別した上で互いに尊重しあって生活する事」であり、それを認めた上で男女共同参画が実  
現するのである。

## 山谷さんからの返信

喜んでくださって、こちらもうれしいです。

周りを見ると、40～50代の方々が多かったように思います。

皆さん熱心に講演に参加されていたので、有意義な講演会になったのではないかと思います。

大学生などの若い人たちも、もっと講演会に参加すれば、社会問題に対する考えも広がるのではないだろうかと思いました。

## 特別寄稿 「山谷講演を聴きながら」 安江薫

今、日本には問題が山積みしていますから、国事に係わる憂国の人には言いたいことがいっぱいあって、話し出したら止まらなくなります。山谷先生のご講演からはそんな感じを受けました。小・中学生を対象に行われている変態性交教育のお話は、私には耳にタコの感がありますので、それとは別のことについて感想と注文を述べることにします。

日本の大学の3割でジェンダー学なるものが必須になっているというのは実に驚きでした。愛媛県ではどうなっているのか、調べて、もしそんな大学があるなら抗議しなければなりません。ついでに、君が代を歌える学生に1単位を贈る運動も如何でしょうか。

ジェンダー学などというものは、今様な言葉で言えばヴァーチャル（空想的）な試論の域を出ないように思われるのですが、あたかも広く認知された哲学の卓説であるかの如く



に、政府や自治体や国民の中に入り込んできている事態は、むしろ哲学の貧困と言えましょう。哲学は思考の遊びの世界ですから、貧しかろうと豊かであろうとどうでもよいことのようにも思われますが、生活という現実のなかであがいている私たちにとっては、非現実的な理論を押し付けられるほど迷惑なことはありません。

必須であれ、選択であれ、多くの大学でジェンダー学が開講されているということは、実に多くのフェミニストが大学にいるということです。また、男女共同参画社会基本法や条例はフェミニズムの国家公務員や地方公務員の協力なしには不可能だったはずです。これらのフェミニストを育てた大学はいったちどこでしょうか。私は東京大学だと思います。東京大学は国家を背負うエリート官僚養成大学として設立されました。しかし、今や国家意識の乏しい無政府主義的な人たちを続々と送り出しているわけです。もはや東京大学の役割は終わったというべきでしょう。

最近タブーが破れて改憲論議が行われるようになりました。論議の焦点は憲法9条のようですが、第9条の前提となっている前文にももっと注目すべきだと、かねがね私は思っていました。前文には、こんなことが書いてあります。「……政府の行為によってふたたび戦争の惨禍が起ることのないようにすることを決意し……」「……平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した……」。なんと、私たちの政府は国民の意思に反して悪いことをすると決めつけたうえに、近隣に武力行使をしかねない反日国家がいくつも存在し、拉致という侵略を行っている国さえあるという現実には頓着していないのです。この点を指摘された山谷先生に、私は全面的に賛同します。

山谷先生が憲法前文改正案を朗読されたとき、私は教育勅語を思い浮かべていました。私がとんでもない軍国主義者だと思いませんか。世間には教育勅語イコール軍国主義という

雰囲気は漂っていますが、それは為にする宣伝の結果です。教育勅語は、「親を大事に」、「夫婦は睦み合い」、「兄弟は仲良く」から始まって、山谷先生が挙げられたようないくつもの徳目を身に付けようではないかと、国民に呼びかけています。そして、それらの徳目は人類普遍であって、古今東西に恥じないものだと胸を張っているのです。山谷先生は、集約的目標として「美しい日本をつくる」とおっしゃいました。これについては、少し注文があります。教育勅語に、「……我が臣民ク忠ニク孝ニ億兆ヲシテヨ世々ノ美ヲセルハ此レ我が国体ノニシテ……」という一節があります。忠と孝に限定するまでもなく、日本人は伝統的に「済美」つまり美の追求を価値としてきた民であるという説に私は共感します。このことは、剣道や柔道が剣術や柔術でないことからもお判りのように、日本人の価値が伝統的に美の追求であるということは是非前文案に含めていただきたいと思います。

## ■□□ 事務局からのお知らせ ■□□

いよいよ夏本番、暑い日が続きます。「なでしこ通信」も回を重ね、やっと一年を迎えることができました。

教科書採択が内外の大きな関心を集めています。来年度から使用される教科書からジェンダーフリーという語句が消えることになったのは、私たちにとって大きな前進です。この勢いで県や市の条例を良識的なものへと変えていきたいものです。

①「なでしこ通信6号」に平成16年収支決算報告書を同封いたします。ご確認ください

い。詳細については事務局へおたずね下さい。

②定例学習会は原則として第1木曜日午後と第3火曜日午前に開催しています。ただし、8月16日（火）はお盆のため、翌17日（水）に変更いたします。会場については事務局へお問い合わせ下さい。

## ■□□ 会員募集のお知らせ ■□□

私達は、愛媛県や松山市などの男女共同参画条例を良識あるものにしたたり、誤った男女共同参画の動きやジェンダーフリーに基づいた教育をただしたりする活動を行っています。年会費は1千円です。是非ご入会下さい。

※会報「なでしこ通信」をお送りします（年6回）。

※講演会・学習会等の行事についてご案内いたします。

## 健全な男女共同参画社会をめざす会

会長 小笠原ミワ子

事務局 青井美智子

〒790-0931松山市西石井1-3-30

電話090-3181-4004 FAX 089-964-3903

メール [t64r59@bma.biglobe.ne.jp](mailto:t64r59@bma.biglobe.ne.jp)

